

宮城教育大学 キャンパスマスタープラン

2005（2020一部更新）



国立大学法人
宮城教育大学

目 次

1. 宮城教育大学の目的・教育方針

2. 宮城教育大学のミッション・基本的な目標

3. キャンパス整備の基本方針

キャンパス整備の基本方針

計画的な施設整備の推進

重点的な施設整備の促進

重点的な整備が必要な施設

整備方針及び推進方策（3S推進）

整備目標・指標

4. 施設の現状と課題

現状と課題

青葉山キャンパス

上杉キャンパス

水の森キャンパス

磯浜キャンパス

宮城県研修センター跡地

5. キャンパス整備のコンセプト

青葉山キャンパス

上杉キャンパス

6. キャンパス整備計画

年次計画

青葉山キャンパス計画

上杉キャンパス計画

7. 整備の実施に向けた基本方針

参考資料

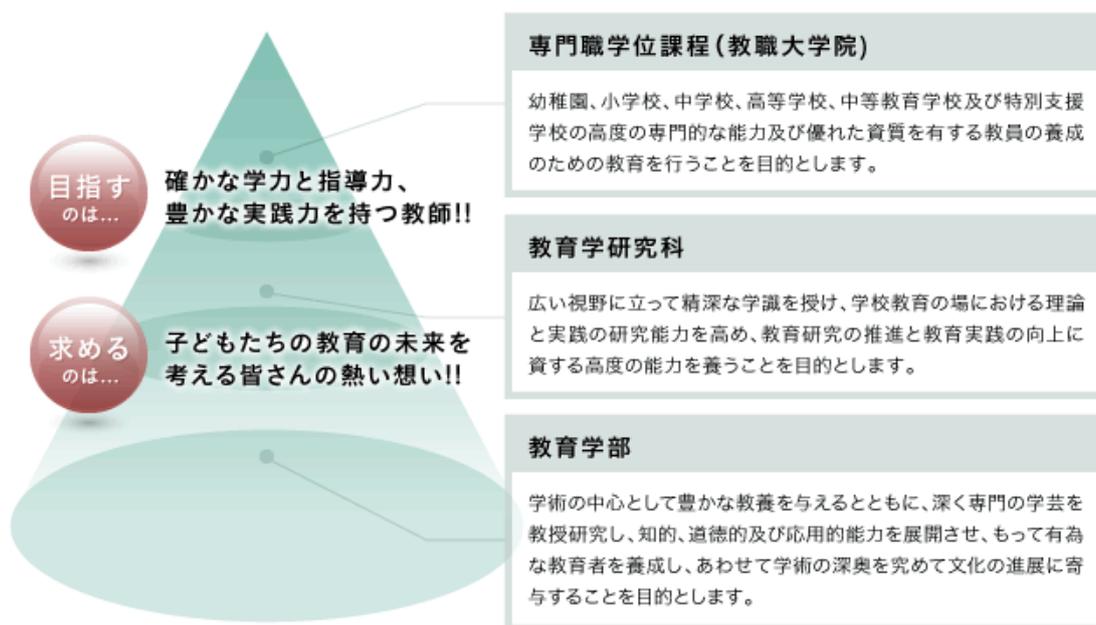
- ・ 国立大学法人宮城教育大学施設メンテナンス体制
- ・ 保有面積の抑制について
- ・ 基幹設備（ライフライン）老朽状況

1. 宮城教育大学の目的・教育方針

宮城教育大学は、社会に対する教員の資質能力の向上に応えるため、教員養成に責任を負う大学として、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校等における確かな指導力と学力、“教育の未来と子どもたちの未来のために”豊かな実践力を持つ教員を養成することを目指す。

本学は、学校教育を中心とした教育実践の向上と教育研究を推進する「教職員のための大学」、研究教育の体制を整え活発な交流で社会全体に門戸を開く「開かれた大学」として、優れた教員の養成に全力を注ぐ。

教育の未来と子どもたちの未来のために

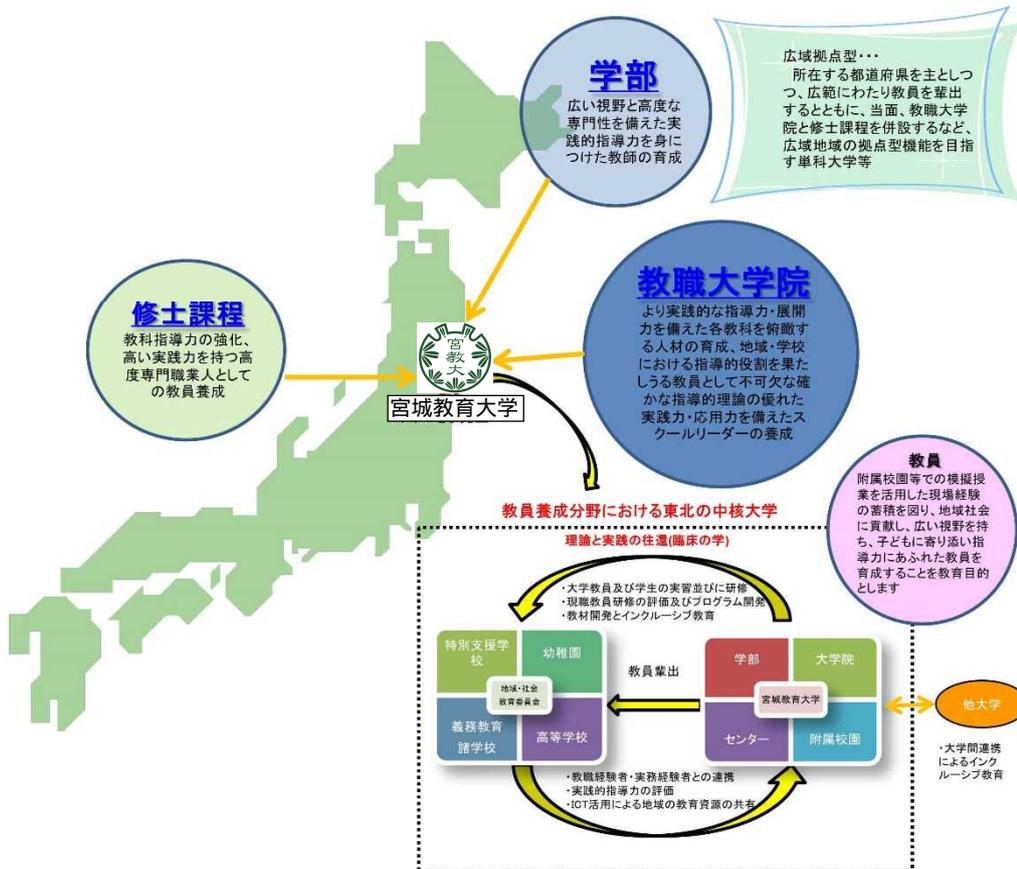


2. 宮城教育大学のミッション

宮城教育大学は、教員養成分野における広域拠点型の大学として指定を受け、優れた資質・能力を持った教員養成に責任を負う大学として、その機能の強靱化を目指す。

宮城教育大学の広域拠点型の大学としてのミッション

教育の未来と 子どもたちの未来のために



基本的な目標

宮城教育大学は「教員養成教育に責任を負う」大学として、教員養成教育と現職教育を両輪とする地域に密着した教育を行うことを目標とし、教育研究に取り組んできた。教員養成に一本化した専門性の高い単科教育大学として、教育の未来と子どもたちの未来のために、その社会的責任を果たすべく、一層の工夫と努力を加え、教員養成教育の分野で真に価値ある大学を目指して、教育研究の充実に努めることを基本的な目標とする。

そのために、(1)教育面においては、学部・大学院の各課程の教育目的に即して、(a)学士課程においては、幼児教育、初等・中等教育及び特別支援教育の学校に有為な教員を送り出すことを目的とし、併せて広義の教育分野における人材の養成に当たる。(b)修士課程においては、高度の専門性を求め、教育を学問として探求・実践し、より優れた教員として活躍できる人材の育成を行う。(c)専門職学位課程（教職大学院）においては、教職としての高度の専門性と実践力を養い、教育の現場において真にリーダーとなり得る人材の養成を行うことを目指す。それぞれの課程において、教育者としての使命感を持ち、広い視野や高度の専門性、実践的な教育能力・指導力を具えた、個性豊かな教員の養成に全力を注ぐ。そのために必要な教育の一層の充実と改善を、自己点検・評価やFDを通じて積極的に推進し、教育の質保証をより確かなものにする。さらに、学力・教育能力のみならず、“豊かな人間力”を培うことを今期の重点目標とする。

(2)研究面においては、各教員がそれぞれの専門分野の研究レベルを深化・向上させつつ、「教員養成マインド」に基づき教師教育へと活用・集約していくこと、さらに教育現場や社会との往還の中で、教育現場が求める今日的な課題や現職教員が抱える実践的な課題に取り組む臨床的・実践的な研究に取り組むことを目標とする。

(3)社会との連携の面では、連携協力協定を締結している各自治体・教育委員会等と連携し、現職教員の資質向上に寄与するとともに、教育現場に生起する困難な諸課題の解決に共同で当たること、さらに国際理解教育や国際教育協力の活動に協力・連携して取り組むことを目標とする。

3. キャンパス整備の基本方針

キャンパス整備の基本方針（中期目標）

本学の本学の教育研究目標を達成するため、既存の施設設備の点検を行い、学生主体の学校施設として、その安全性、信頼性を確保する。今後必要となる教育研究上の新たなニーズに対応したスペースの確保や教育研究施設等、全体ビジョンを検討しながら整備を行い、教員養成及び知的創造活動の拠点としての良好なキャンパス環境の形成を図る。

計画的な施設整備の推進

施設の現状と課題、施設整備の在り方を踏まえ、計画的な施設整備の推進を図る。

- 長期的視点に立ったキャンパス環境・整備
キャンパスマスタープラン策定・充実の促進
- 効果的・効率的な整備による価値向上
「大学施設の性能評価システム」の導入・充実
- 戦略的マネジメントに必要な人材育成
積極的かつ幅広い情報収集及び研修会への参加

重点的な施設整備の促進

厳しい財政状況の中で効果的かつ効率的な施設整備を進める事が必要なため、重点的な整備が必要な施設を明確化し、その整備に係る目標及びシステム改革の取り組みも盛り込んだ施設整備計画を策定する。

重点的な整備が必要な施設

5か年計画において、以下の施設を重点的に整備する

- 安全・機能性に問題のある既存ストックの改善
耐震性や経年劣化により安全性・機能性に著しく問題のある施設や基幹整備について、教育研究環境としての機能を十分に備えたものとなるよう改善。
- 高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠な新たなスペースの確保
特色ある教育研究活動を活性化するためのスペース、政策的課題や社会的要請による新たな教育研究ニーズへの対応等に不可欠なスペース整備

整備方針及び推進方策（3 S 推進）

重点化に当たっては、以下順位を基に3 Sを強力に推進する

- 質的向上への戦略的整備（Strategy）
教育研究等への効果が高い施設に対するカテゴリー別の優先的な整備の推進
国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実
国際化の推進機能の充実
高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実
大学等の特性を活かした多様な教育研究機能の充実
学生支援や地域社会貢献など大学等の戦略を踏まえた必要な機能の充実
- 地球環境に配慮した教育研究環境の実現（Sustainability）
耐震化。老朽化施設の計画的な整備の推進

整備目標・指標

- 質的向上への戦略的整備→若手研究者の研究支援スペースの確保
- 地球環境に配慮した教育研究環境の実現→老朽施設のエコ再生CO2排出量減
- 安全・安心な教育研究環境の確保→耐震化、老朽化した施設の解消
- システム改革の推進→地域連携の共同利用スペースの整備
- 地球環境への配慮や施設運営の適正化の観点から、エネルギー使用量の見える化を更に進展させ、省エネルギーに対する意識を向上させるとともに、施設の高断熱化やガス空調設備への転換など省エネルギー化整備の推進により、エネルギー使用量を第3期中期目標期間中に年平均1%以上削減する。

4. 施設の現状と課題

●現状と課題

◆青葉山キャンパス

築後20年を経過したものが全体の90%以上を占め、更に30年を経過した施設建物が80%であるため、経年劣化による改修と耐震補強が必要な施設が多数保有している。

講堂については、屋内天井・照明等設備補強及び音響設備更新が必要である。屋外環境整備は、構内道路、雨水系統、樹木せん定も必要である。

◆上杉キャンパス

附属小学校校舎・体育館、附属中学校体育館の耐震改修整備が計画的に進行し、附属幼稚園舎改修も平成25年度実施予定である。

屋外環境整備（プール修繕、校内道路、雨水系統、樹木せん定）が必要である。

◇水の森（女子学生寄宿舍）キャンパス

寮室が2名部屋であり勉学に支障をきたしている状態である。外壁については、平成23年3月の東日本震災により部分的修繕は行われたため、学生及び地域住民から早期塗装改修の要望がある。

◇磯浜キャンパス

平成23年3月の東日本震災で建物が流失した。計画等は山元町の復興計画を確認したうえで検討する。

◇宮城県研修センター跡地

宮城県所有の宮城県研修センターは、青葉山キャンパス構内道路を經由し北東の位置にあり、平成25年4月に宮城県名取市に移転した。

敷地面積は45,722㎡、建物は6棟で延べ床面積は6,954㎡である。跡地利用について宮城県と検討中である。

5. キャンパス整備のコンセプト

◆青葉山キャンパス

- ・ 本学のメインキャンパスである青葉山キャンパスは、緑が多くキャンパス周辺も自然に恵まれた環境にある。

青葉山キャンパスの主要な教育研究施設は、大学創設時の昭和43年に整備されたもので老朽化が進んでおり、計画的な整備計画が必要となっている。

整備の目標としては、教育研究施設の情報化対応、リフレッシュ・コミュニケーションスペースの確保、講義室・研究室の機能・管理的な面での見直し、学生のための共用スペースの確保などが必要となる。

附属図書館についても、図書館サービス業務の改善、新しい教育分野の図書の整備に伴う図書の増加による書庫、研究図書館機能の強化、情報化・電子化など「大学における情報メディアセンター」として発展することが求められており、これらに対応すべきスペースの確保等が必要となる。

◆キャンパス整備のコンセプト

「土地を有効利用した緑豊かなキャンパスの創出」

「独自性と統一性の併存するキャンパスの創造」

「研究、教育及び生活環境に優れたキャンパスの創造」

「安心、安全な環境とアメニティに配慮したキャンパスの創造」

◆上杉キャンパス

- ・ 附属3校園は、幼・小・中の連携を密にした一貫教育を教育目標に掲げ、子どもたちが人間として、調和のとれた人格形成を備えることが出来る教育を目指している。

整備の目標としては、公開研究会、TT方式や学年集団で多様な学習形態に対応できる多目的空間の確保、情報化、教育相談、不登校、いじめ問題などに対応できる施設、幼稚園においては全園活動や地域との交流活動など、園児全員及び父母が活動できるような遊戯室の整備などが必要となる。

◆キャンパス整備のコンセプト

「連携密な一貫教育の実践への対応」

「高機能・多機能な学習環境」

「快適で潤いがあり、安全性が確保される環境」

6. キャンパス計画

●年次計画

- ・年次計画表

◆青葉山キャンパス計画

- ・ゾーニング計画図
- ・5か年整備計画図
- ・経年別建物配置図
- ・ライフライン基幹図

◆上杉キャンパス計画

- ・ゾーニング計画図
- ・5か年整備計画図
- ・経年別建物配置図

7. 整備の実施に向けた基本方針

●整備実施への流れ

・重点的に整備すべき施設の場合

- ①第3次国立大学法人等施設整備5か年計画（平成23年～27年）
- ②第2期施設メンテナンス体制（平成23年3月作成）

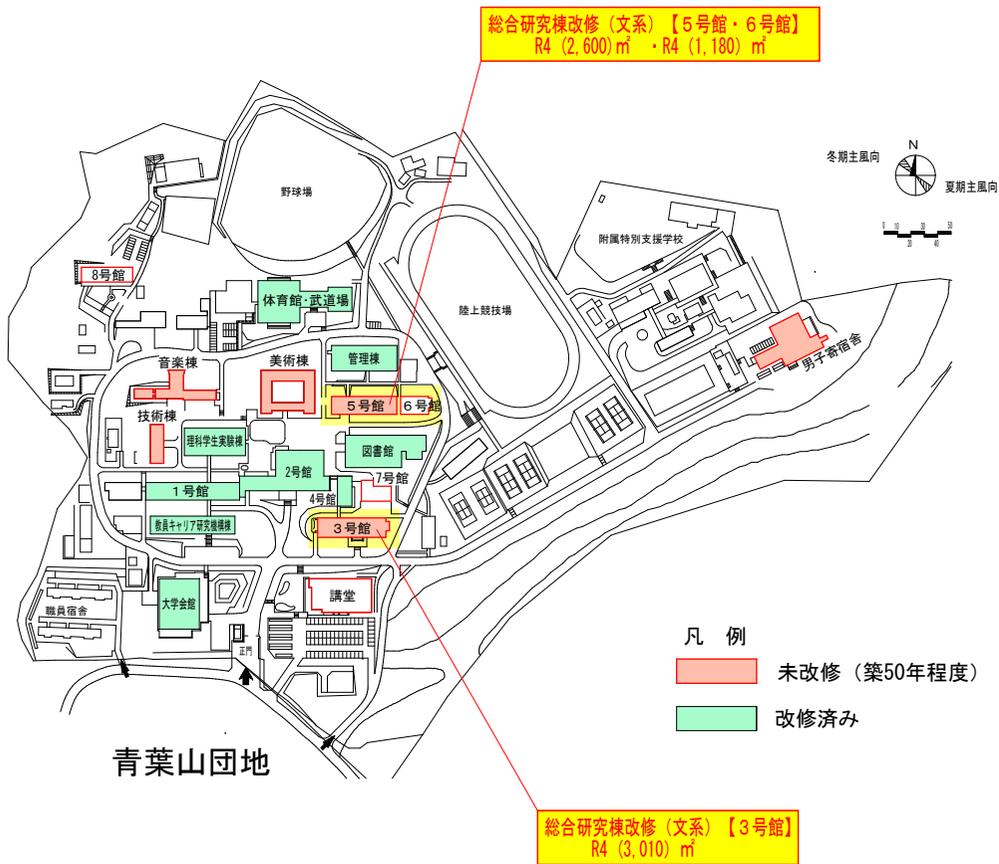
上記のデータを基に、施設担当者及び専門業者等の意見を参考に整備計画書を作成し、財務・施設委員会にて了承を得る。その後、「国立大学法人等施設整備費等要求書」を作成し提出し予算措置に努める

・短期的に整備すべき施設の場合

- ①第2期施設メンテナンス体制（平成23年3月作成）

上記のデータを基に、施設担当者及び修繕要望者との打ち合わせにより計画書を作成し、修繕経費等により整備に努める。

● 年次計画



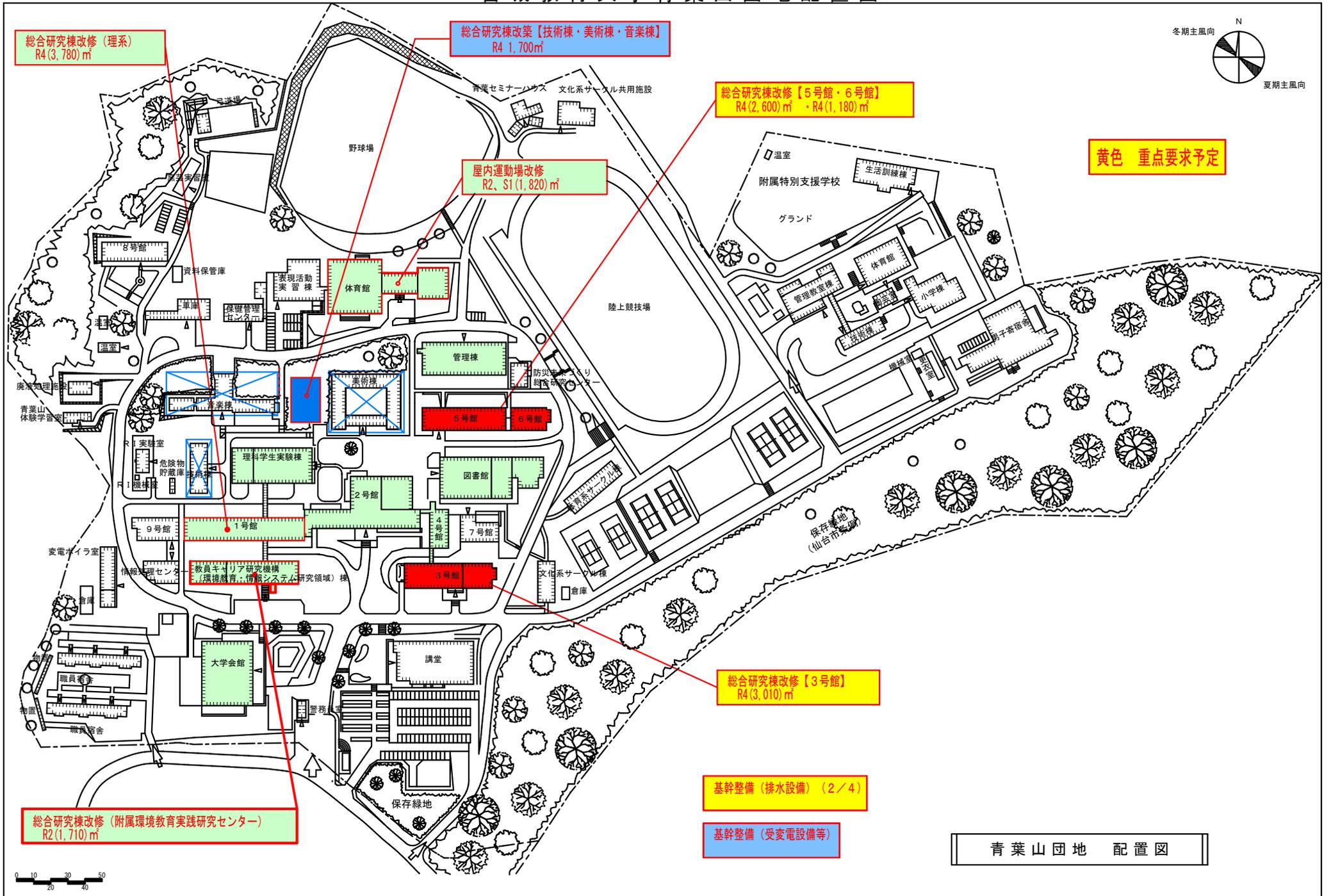
未改修建物

凡 例	建 物 名	建 築 年	構 造	面積㎡	備 考
築50年程度	5号館	昭43	R4	2,605	
	3号館	昭47,53	R4	3,014	
	美術棟	昭43	R1	854	
	音楽棟	昭43,55	R2	1,008	
	技術棟	昭43	R1	290	
	男子寄宿舍	昭43	R5	3,581	
築40年程度	6号館	昭54	R4	1,181	
	7号館	昭55	R3	913	
	8号館	昭55	R2	892	
	講堂	昭56	SR2	1,225	

改修済み建物

凡 例	建 物 名	建 築 年	構 造	面積㎡	改 修 整 備 年 度
改修済み	2号館	昭43,平12	R3	4,017	平成 12年度
	附属図書館	昭43,50,58	R2・3	2,934	平成 20年度
	大学会館	昭43	R2	2,121	平成 21年度
	理科学学生実験棟	昭43,56	R2	1,889	平成 24年度
	4号館	昭47	R3	815	平成 26年度
	管理棟	昭43,57,平5	R3	2,044	平成 27年度
	教員キャリア研究機構棟	昭43,46	R2	1,683	平成 30年度
	体育館・武道場	昭43	R2,SR1	1,820	平成 31年度予定事業
	1号館	昭43	R4	3,788	平成 31年度予定事業

宮城教育大学青葉山団地配置図



小規模実施予定事業表(H29～)

◆安全性の確保

番号	実施ヶ所等	整備内容	工種	H30/12	1	2	3	4	5	6	7	8
1	表現実習棟 内壁劣化補修	表現実習棟2階 内壁(合板)の補修	建築		→							
2	避難階段・研究室換気扇	照明設備、コンクリート剥離補修、換気扇設置	建築 機械		→	→						
3	音楽棟練習室改修	練習室のドア補修	建築		→	→						
4	9号館5階数学科計算機室	柱等破損ヶ所補修、破損書架の撤去	建築 電気		→	→						
5	窯芸実習棟照明設備改修	点灯しない照明器具の更新	電気		→	→						
6	壁カビ対策	防カビ塗装	建築	→●								
7	コンセント改修	医療機器電源用アース付きコンセントの導入	電気	→●								
8	RI施設管理区域フェンス設置	管理区域メッシュフェンスの設置	建築		→							
9	小学部ホール等空調設備設置	小学部	機械(小学部) 機械(管理棟) 電気			→	●		GW → ●			
10	門扉改修・東門付近の道路通行注意喚起看板設置	破損し使用できない状態になっている門扉等を改修	建築		→	→	●					
11	空調設備設置	猛暑対策	電気 機械	→	→	→	→	→	→	→	→	→

◆建物機能維持

番号	実施ヶ所等	整備内容	工種	12	1	2	3	4	5	6	7	8
12	技術棟トイレ改修	女子利用も踏まえた改修	建築 電気 機械									→● →● →●
13	児童文化実習室 床仕上げ改修	床カーペット張り替え	建築		→	→	●					
14	3号館322教室床タイル改修	床Pタイルの改修	建築		→	→	●					
15	トイレ改修	内装・機器等の改修	建築 電気 機械			→	→	→	→			
16	管理棟防水屋上防水等改修	雨漏れ対策 屋根・外壁等を改修	建築									→
17	特別支援学校・幼稚園のプールろ過装置等の修繕	濾過装置ポンプ修繕・自動塩素管理システム等の修繕	機械(特支) 機械(幼)					→	→			

◆教育研究機能強化

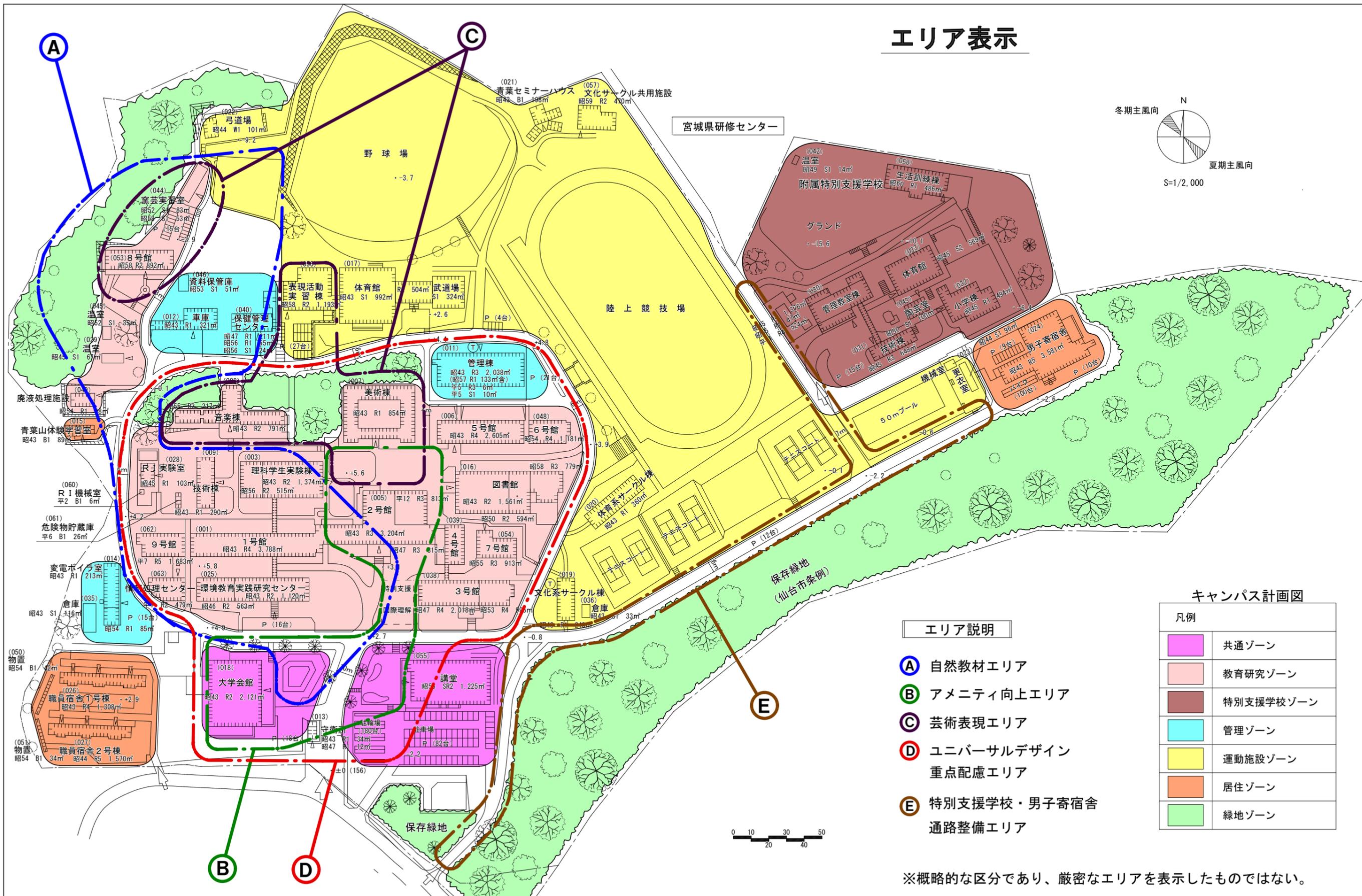
番号	実施ヶ所等	整備内容	工種	12	1	2	3	4	5	6	7	8
18	生理検査室 空調設備	学生の処置室に空調設備を設置	電気 機械					→	GW →			
19	共同研究スペースの整備	大学教員と附属学校園教員の活動を支える内装改修等	建築 電気 機械		→	→	→					
20	特別な配慮を要する生徒支援のための教室整備	あしすとら一む、内装等改修	建築 電気 機械		→	→						→● →● →●

◇その他 工事等

番号	実施ヶ所等	整備内容	工種	12	1	2	3	4	5	6	7	8
	未来の教室整備		建築・電気・機械									
	学生相談室整備 施設		建築・電気・機械	→●								
	女子寮 補食室の整備		建築・電気・機械			→	→					

◆ 青葉山キャンパス計画

エリア表示



エリア説明

- (A)** 自然教材エリア
- (B)** アメニティ向上エリア
- (C)** 芸術表現エリア
- (D)** ユニバーサルデザイン重点配慮エリア
- (E)** 特別支援学校・男子寄宿舍通路整備エリア

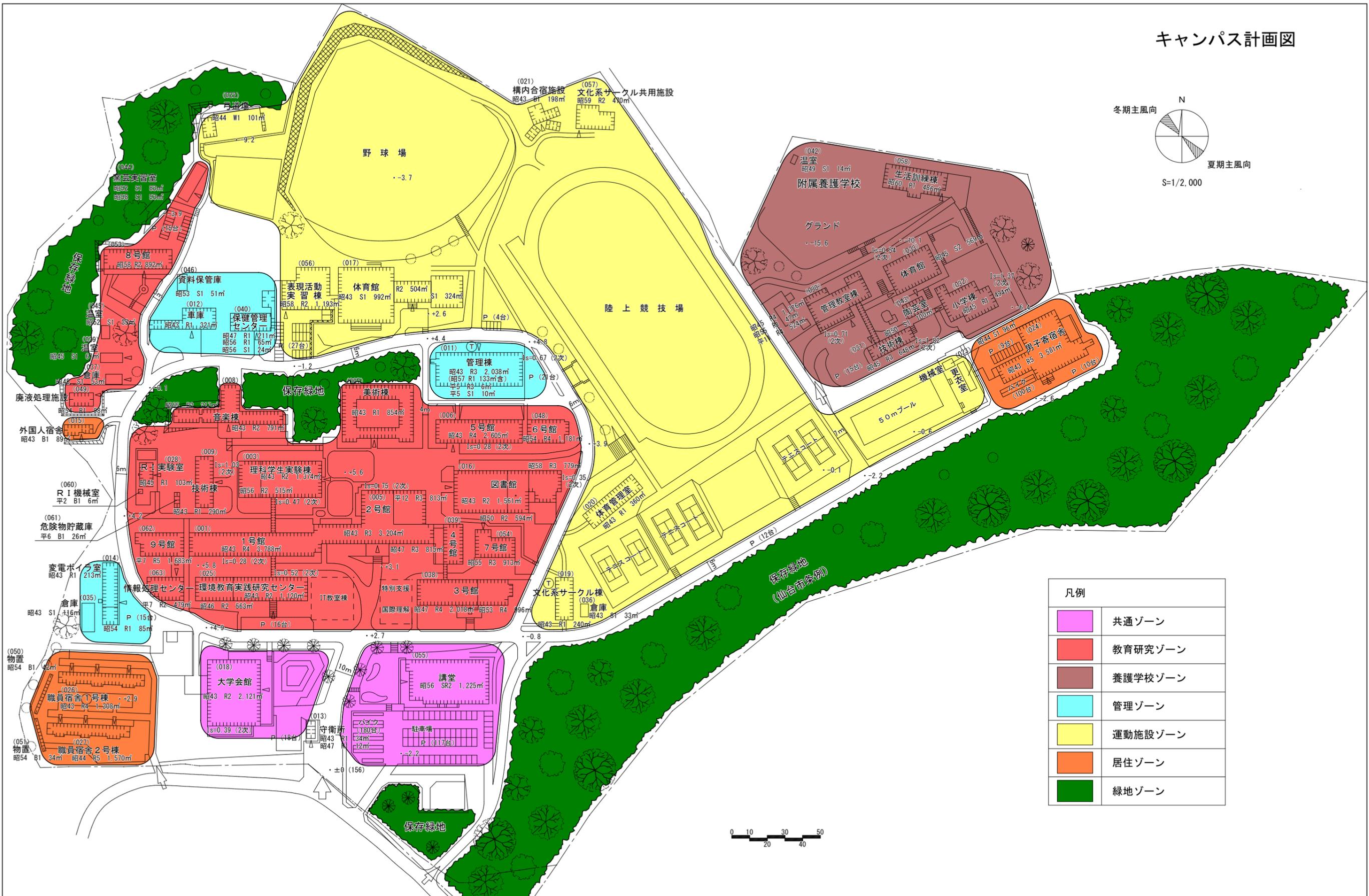
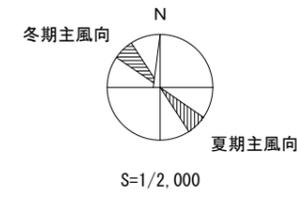
キャンパス計画図

凡例	
	共通ゾーン
	教育研究ゾーン
	特別支援学校ゾーン
	管理ゾーン
	運動施設ゾーン
	居住ゾーン
	緑地ゾーン

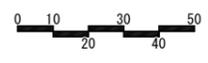
※概略的な区分であり、厳密なエリアを表示したものではありません。

敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	法人番号	法人名	作成年度
210,267㎡	23,751㎡	50,992㎡	11.2%	24.2%	1,661人	教育学部、環境教育実践研究センター、附属特別支援学校、職員宿舎 学生寄宿舍(男子)、教育臨床総合研究センター、教育復興支援センター	001	青葉山	仙台市青葉区荒巻字青葉 149	011	宮城教育大学	平成25年

キャンパス計画図

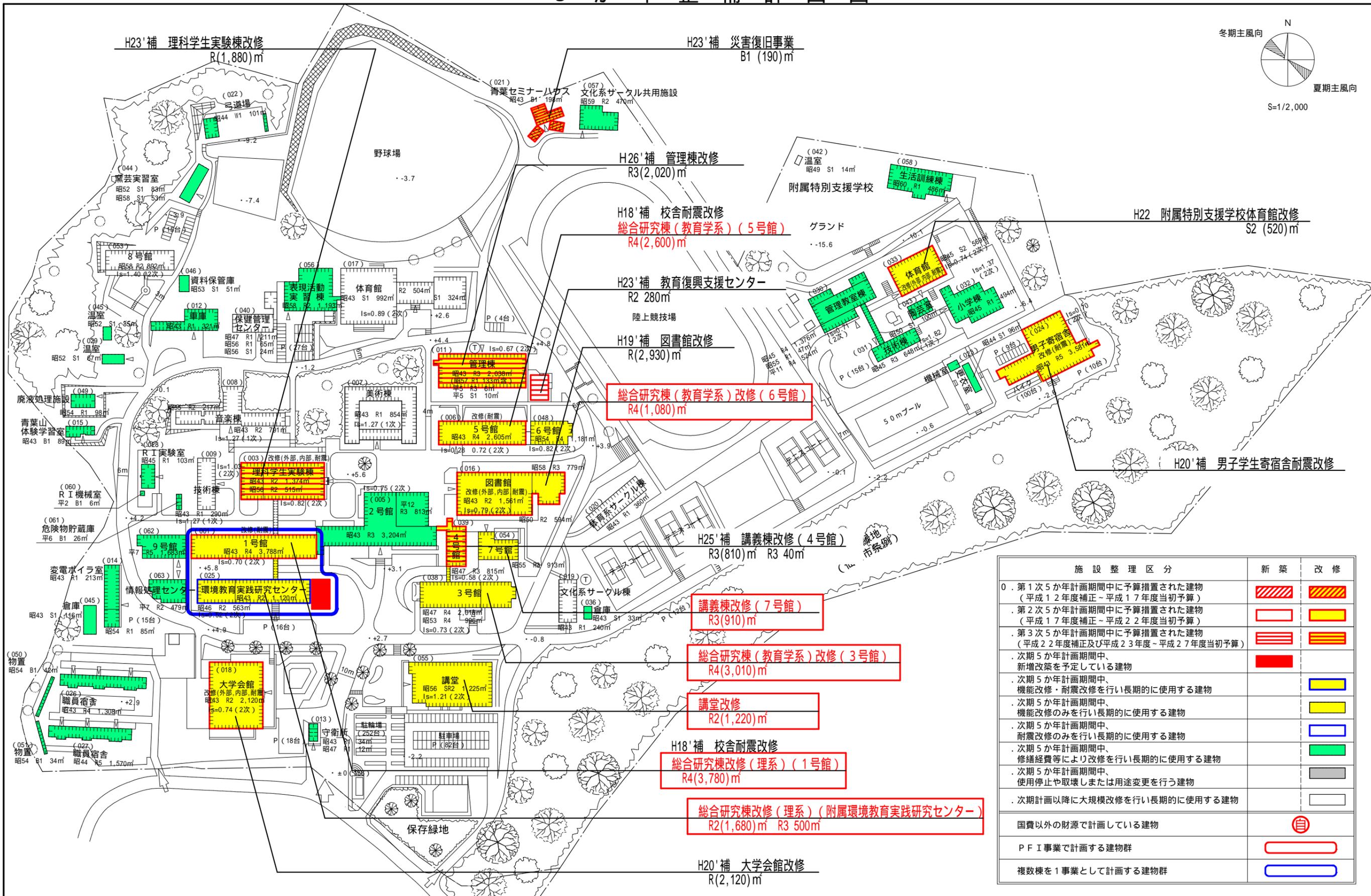
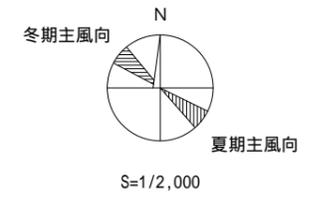


	共通ゾーン
	教育研究ゾーン
	養護学校ゾーン
	管理ゾーン
	運動施設ゾーン
	居住ゾーン
	緑地ゾーン



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	法人番号	法人名	作成年度
210,267㎡	23,554㎡	50,652㎡	11.2%	24.1%	1,599人	教育学部、環境教育実践研究センター、職員宿舎、学生寄居舎(男子)、附属養護学校	001	青葉山	仙台市青葉区荒巻字青葉149	011	宮城教育大学	平成17

5 年 整 備 計 画 図

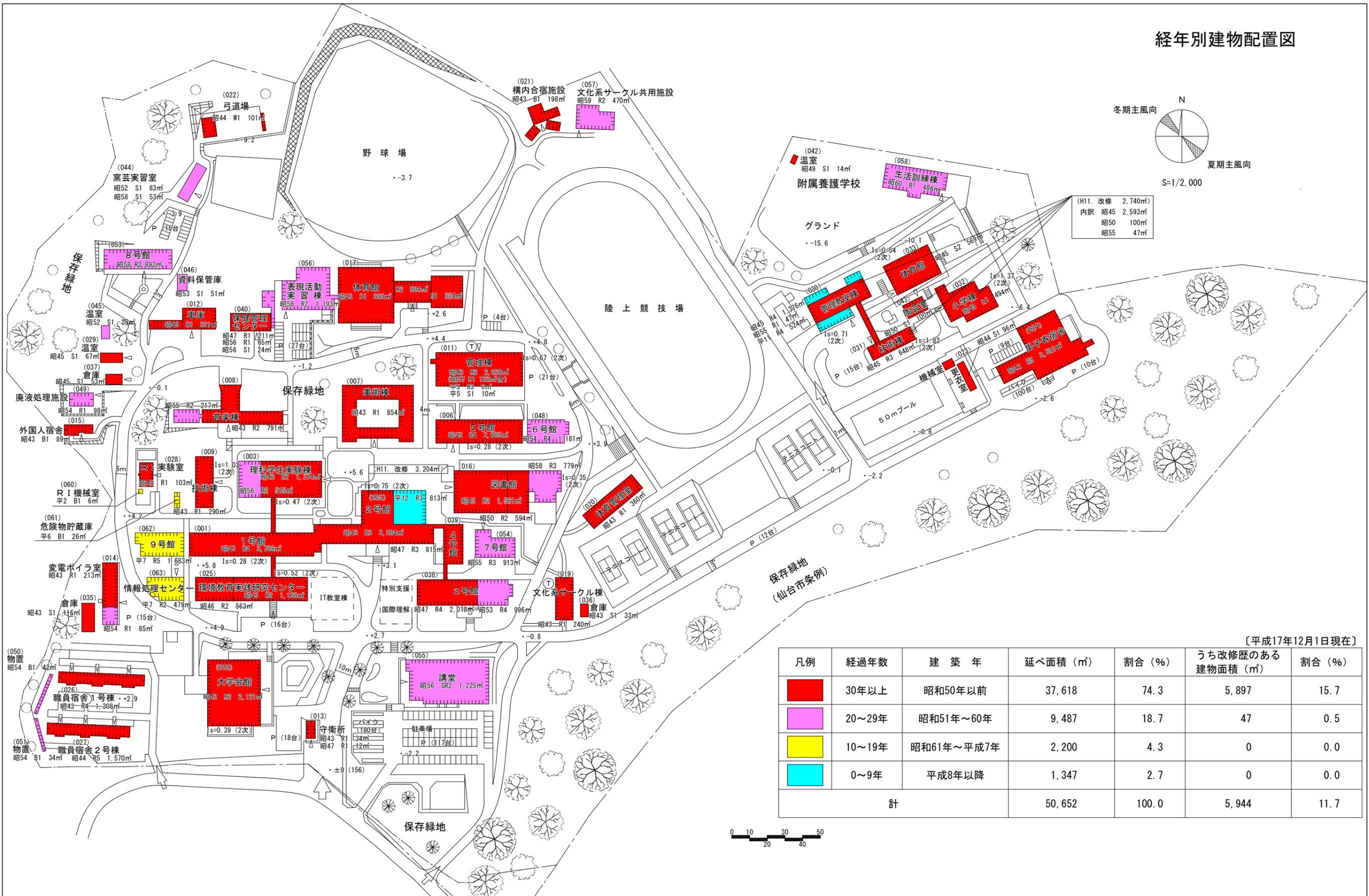


施設整理区分	新築	改修
第1次5年計画期間中に予算措置された建物 (平成12年度補正～平成17年度当初予算)		
第2次5年計画期間中に予算措置された建物 (平成17年度補正～平成22年度当初予算)		
第3次5年計画期間中に予算措置された建物 (平成22年度補正及び平成23年度～平成27年度当初予算)		
次期5年計画期間中、 新增改築を予定している建物		
次期5年計画期間中、 機能改修を行い長期的に使用する建物		
次期5年計画期間中、 機能改修のみを行い長期的に使用する建物		
次期5年計画期間中、 耐震改修のみを行い長期的に使用する建物		
次期5年計画期間中、 修繕経費等により改修を行い長期的に使用する建物		
次期5年計画期間中、 使用停止や取壊しまたは用途変更を行う建物		
次期計画以降に大規模改修を行い長期的に使用する建物		
国費以外の財源で計画している建物		
PFI事業で計画する建物群		
複数棟を1事業として計画する建物群		

敷地面積	建築面積	建物延面積	建べい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名	作成年度
210,267㎡	23,751㎡	50,992㎡	11.2%	24.2%	1,661人	教育学部、環境教育実践研究センター、附属特別支援学校、職員宿舎 学生宿舎(男子)、教育臨床総合研究センター、教育復興支援センター	001	青葉山	仙台市青葉区荒巻字青葉 149	0136	宮城教育大学	平成26年度



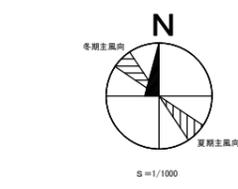
経年別建物配置図



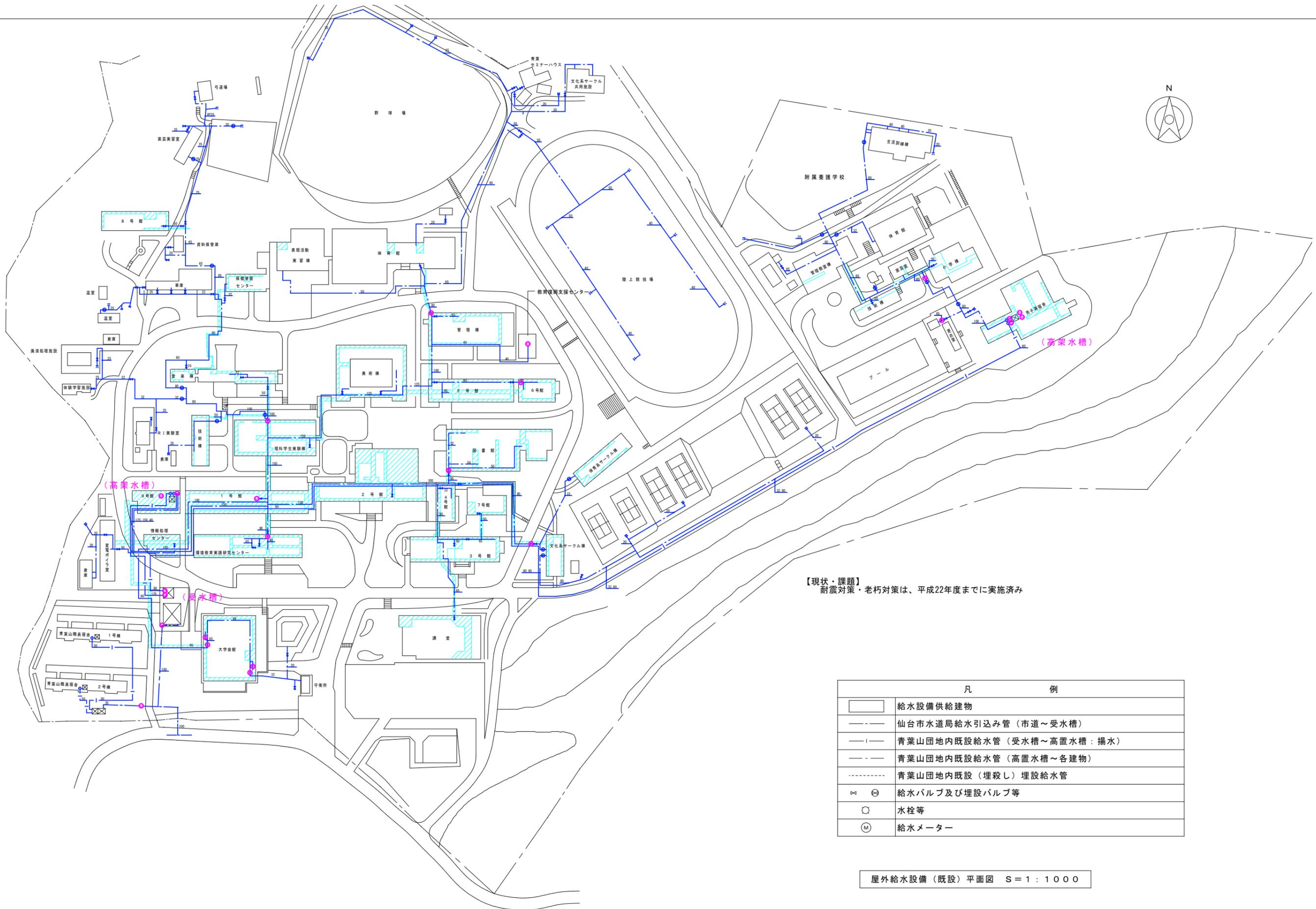
凡例	経過年数	建築年	延べ面積 (㎡)	割合 (%)	うち改修歴のある建物面積 (㎡)	割合 (%)
■	30年以上	昭和50年以前	37,618	74.3	5,897	15.7
■	20~29年	昭和51年~60年	9,487	18.7	47	0.5
■	10~19年	昭和61年~平成7年	2,200	4.3	0	0.0
■	0~9年	平成8年以降	1,347	2.7	0	0.0
計			50,652	100.0	5,944	11.7

敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	法人番号	法人名	作成年度
210,267㎡	23,554㎡	50,652㎡	11.2%	24.1%	1,599人	教育学部、環境教育実践研究センター、職員宿舎、学生寄宿舍(男子)、附属養護学校	001	青葉山	仙台市青葉区荒巻字青葉149	011	宮城教育大学	平成17

バリアフリーマップ ー青葉山キャンパスー



- 凡例
- S スロープ
 - A 自動ドア
 - E ELEV
 - W 障害者WC
 - B 点字ブロック

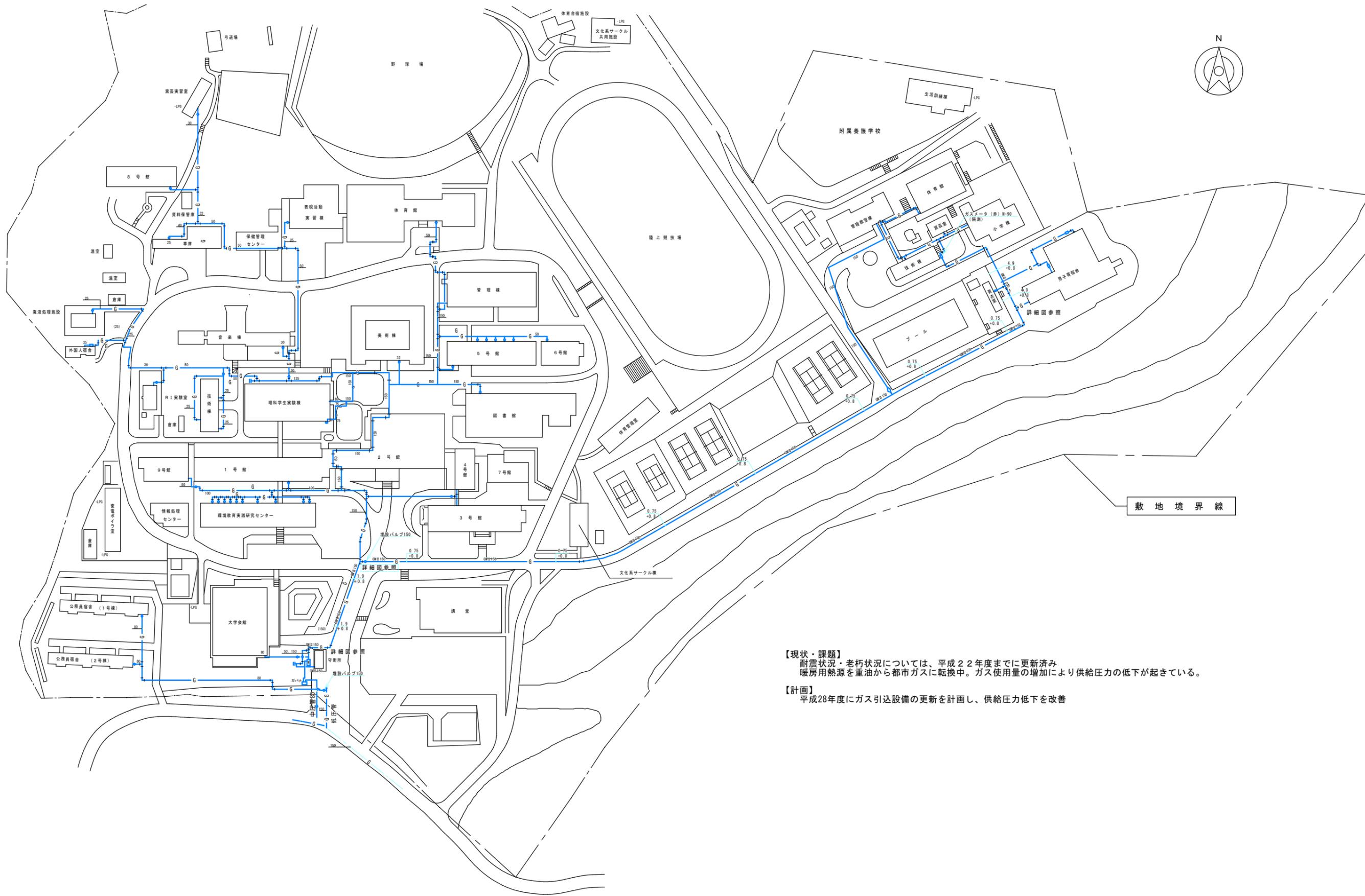


【現状・課題】
耐震対策・老朽対策は、平成22年度までに実施済み

凡 例	
	給水設備供給建物
	仙台市水道局給水引込み管（市道～受水槽）
	青葉山団地内既設給水管（受水槽～高置水槽：揚水）
	青葉山団地内既設給水管（高置水槽～各建物）
	青葉山団地内既設（埋殺し）埋設給水管
	給水バルブ及び埋設バルブ等
	水栓等
	給水メーター

屋外給水設備（既設）平面図 S=1:1000

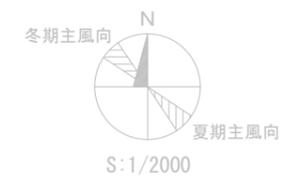
宮城教育大学施設課				図面名称	日付	図面番号
課長 係長 担当				ライフライン（給水）基幹図	H25.10	
				団地名	縮尺	
				青葉山団地	1/1000	



【現状・課題】
 耐震状況・老朽状況については、平成22年度までに更新済み
 暖房用熱源を重油から都市ガスに転換中。ガス使用量の増加により供給圧力の低下が起きている。

【計画】
 平成28年度にガス引込設備の更新を計画し、供給圧力低下を改善

宮城教育大学施設課				図面名称	日付	図面番号
課長	係長	担当		ライフライン（ガス）基幹図	H25.10	
				団地名	縮尺	
				青葉山団地	1/1000	

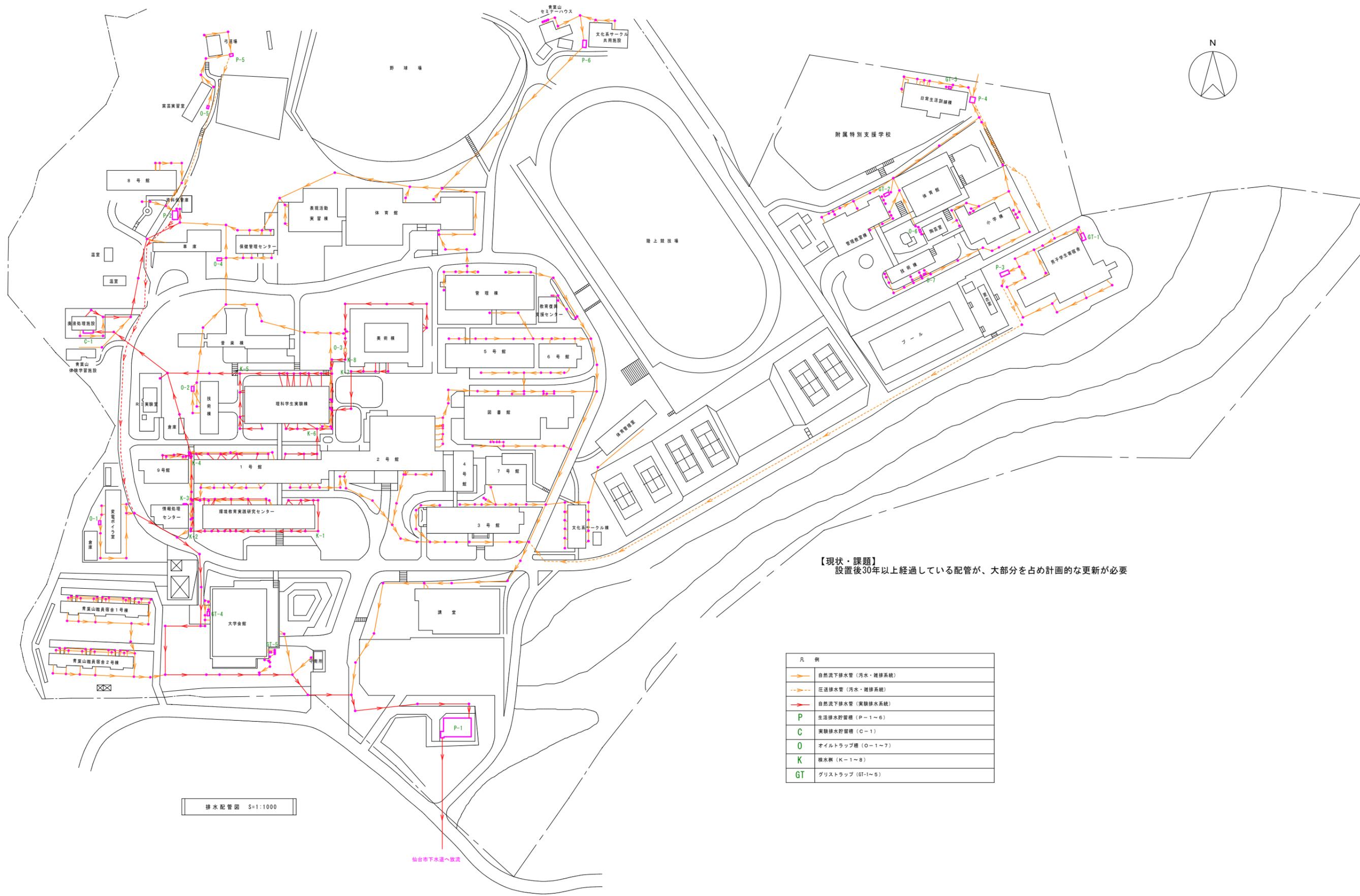


【現状・課題】
 団地造成時の配管が大部分を占め、また耐震性の低いヒューム管である。
 排水詰まりや配管の脱落等による冠水が発生している

【計画】
 平成28年度以降、計画的に順次改修

- 凡例
- 人孔（マンホール）
 - ⊠ 枡
 - ▭ 街渠枡
 - 基幹排水管
 - 排水管
 - U形側溝
 - 半径1000+700
 - 1000□
 - 1000□
 - 幅200
 - 幅200
 - 幅400

ライフライン（雨水）基幹図



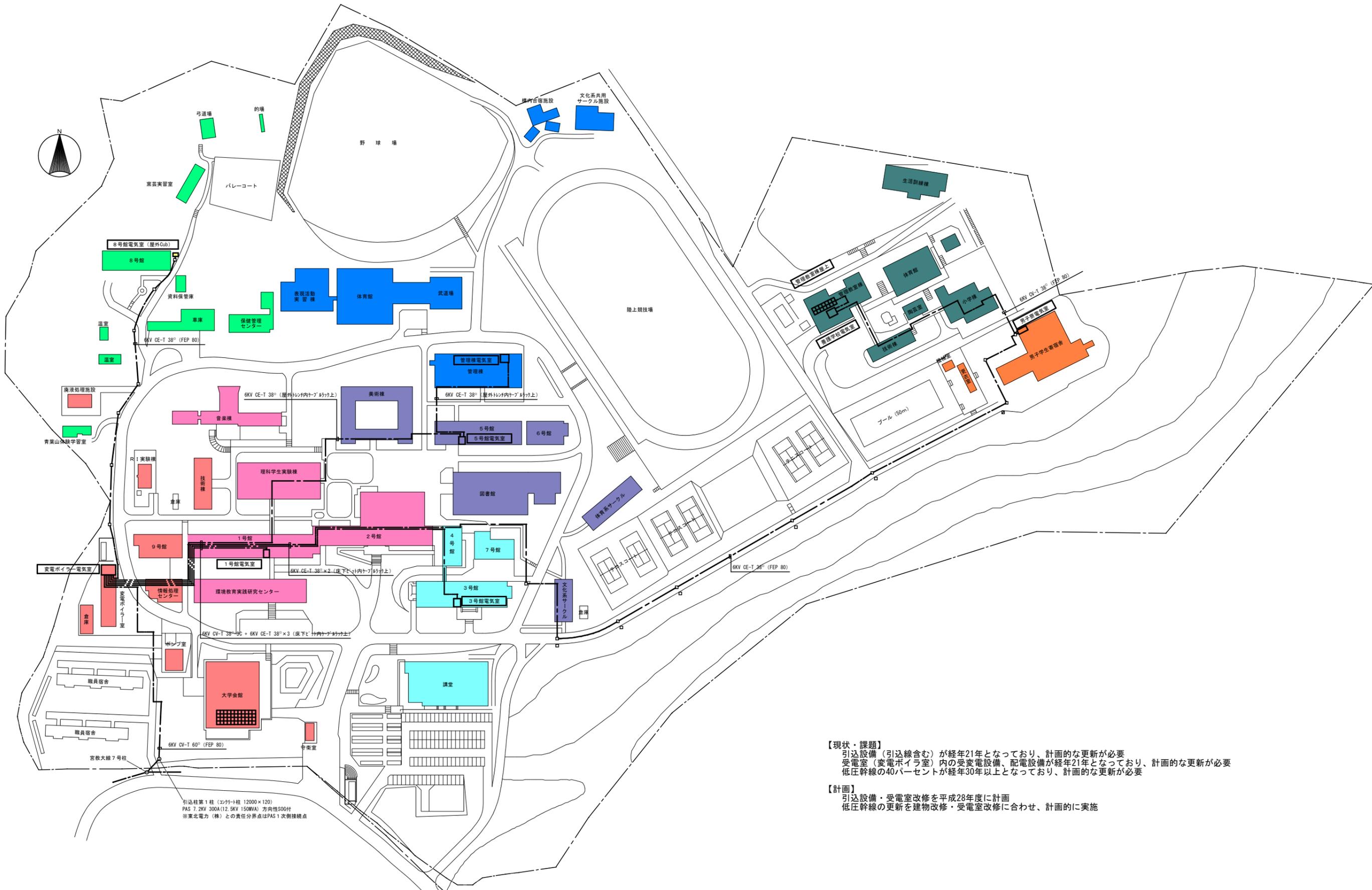
【現状・課題】
設置後30年以上経過している配管が、大部分を占め計画的な更新が必要

凡 例	
	自然流下排水管 (汚水・雑排水系)
	圧送排水管 (汚水・雑排水系)
	自然流下排水管 (実験排水系)
	生活排水貯留槽 (P-1~6)
	実験排水貯留槽 (C-1)
	オイルトラップ槽 (O-1~7)
	検水網 (K-1~8)
	グリストラップ (GT-1~5)

排水配管図 S=1:1000

仙台市下水道へ放流

宮城教育大学施設課			図面名称 ライフライン (排水) 基幹図	日付 H24.9	図面番号
課長	係長	担当	団地名 青葉山団地	縮尺 1/1000	



【現状・課題】
 引込設備（引込線含む）が経年21年となっており、計画的な更新が必要
 受電室（変電ボイラ室）内の受変電設備、配電設備が経年21年となっており、計画的な更新が必要
 低圧幹線の40パーセントが経年30年以上となっており、計画的な更新が必要

【計画】
 引込設備・受電室改修を平成28年度に計画
 低圧幹線の更新を建物改修・受電室改修に合わせ、計画的に実施

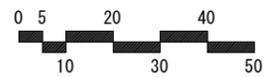
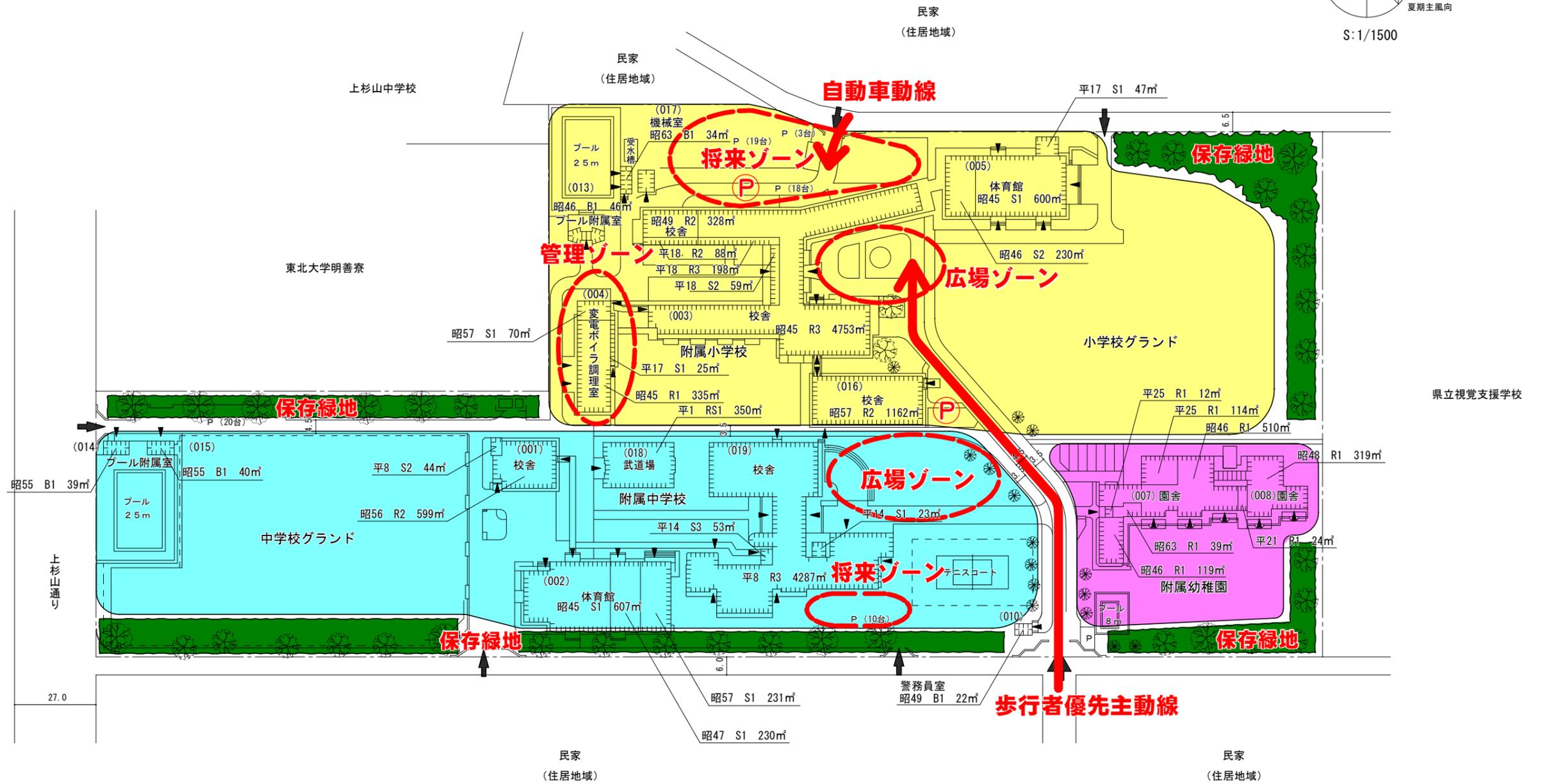
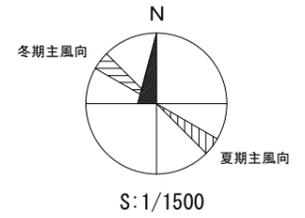
引込柱第1柱（3φ11-1柱 12000×120）
 PAS 7.2KV 300A (12.5KV 150MVA) 方向性SOG付
 ※東北電力（株）との責任分界点はPAS1次側接続点

備考	宮城教育大学施設課			工事名称 宮城教育大学	日付 平成 年度	図面番号 E-
	課長	係長	係員	図面名称 ライフライン（自家用電気工作物）基幹図	縮尺 /	

◆ 上杉キャンパス計画

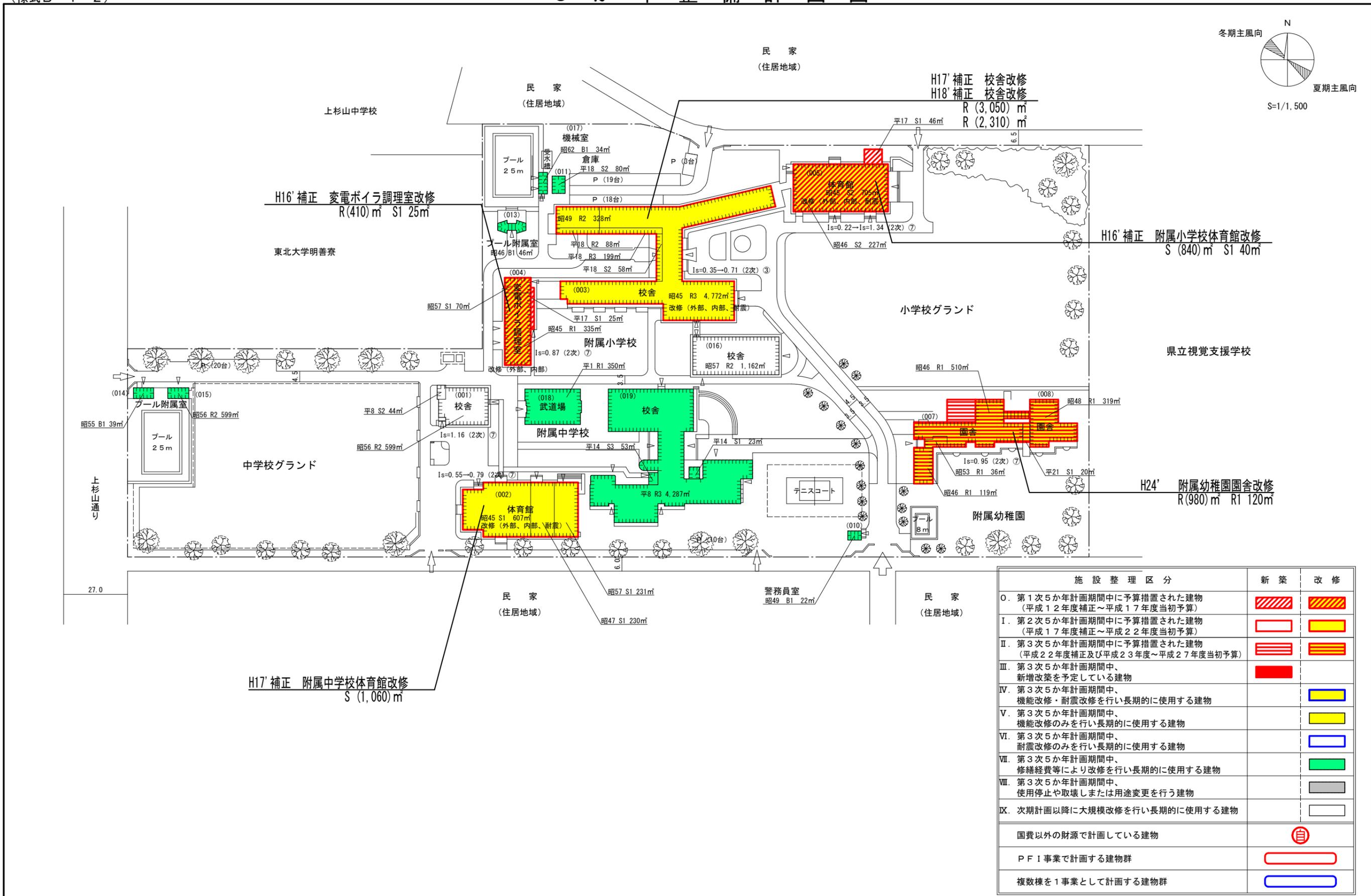
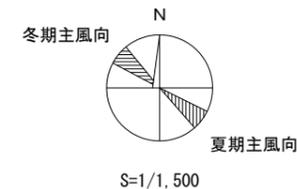
キャンパス計画図

凡例	
	幼稚園ゾーン
	小学校ゾーン
	中学校ゾーン
	緑地ゾーン

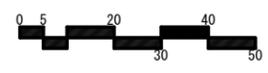


敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全生徒数	学部等名	団地番号	団地名	所在地名	法人番号	学校名	作成年度
57,659㎡	9,536㎡	15,961㎡	16.5%	27.7%	1,384人	附属中学校、附属小学校、附属幼稚園	002	上杉	仙台市青葉区上杉 6-4-1	011	宮城教育大学	平成30

5 年 整 備 計 画 図



施設整理区分	新築	改修
0. 第1次5か年計画期間中に予算措置された建物 (平成12年度補正～平成17年度当初予算)		
I. 第2次5か年計画期間中に予算措置された建物 (平成17年度補正～平成22年度当初予算)		
II. 第3次5か年計画期間中に予算措置された建物 (平成22年度補正及び平成23年度～平成27年度当初予算)		
III. 第3次5か年計画期間中、 新增改築を予定している建物		
IV. 第3次5か年計画期間中、 機能改修・耐震改修を行い長期的に使用する建物		
V. 第3次5か年計画期間中、 機能改修のみを行い長期的に使用する建物		
VI. 第3次5か年計画期間中、 耐震改修のみを行い長期的に使用する建物		
VII. 第3次5か年計画期間中、 修繕経費等により改修を行い長期的に使用する建物		
VIII. 第3次5か年計画期間中、 使用停止や取壊しまたは用途変更を行う建物		
IX. 次期計画以降に大規模改修を行い長期的に使用する建物		
国費以外の財源で計画している建物		
PFI事業で計画する建物群		
複数棟を1事業として計画する建物群		

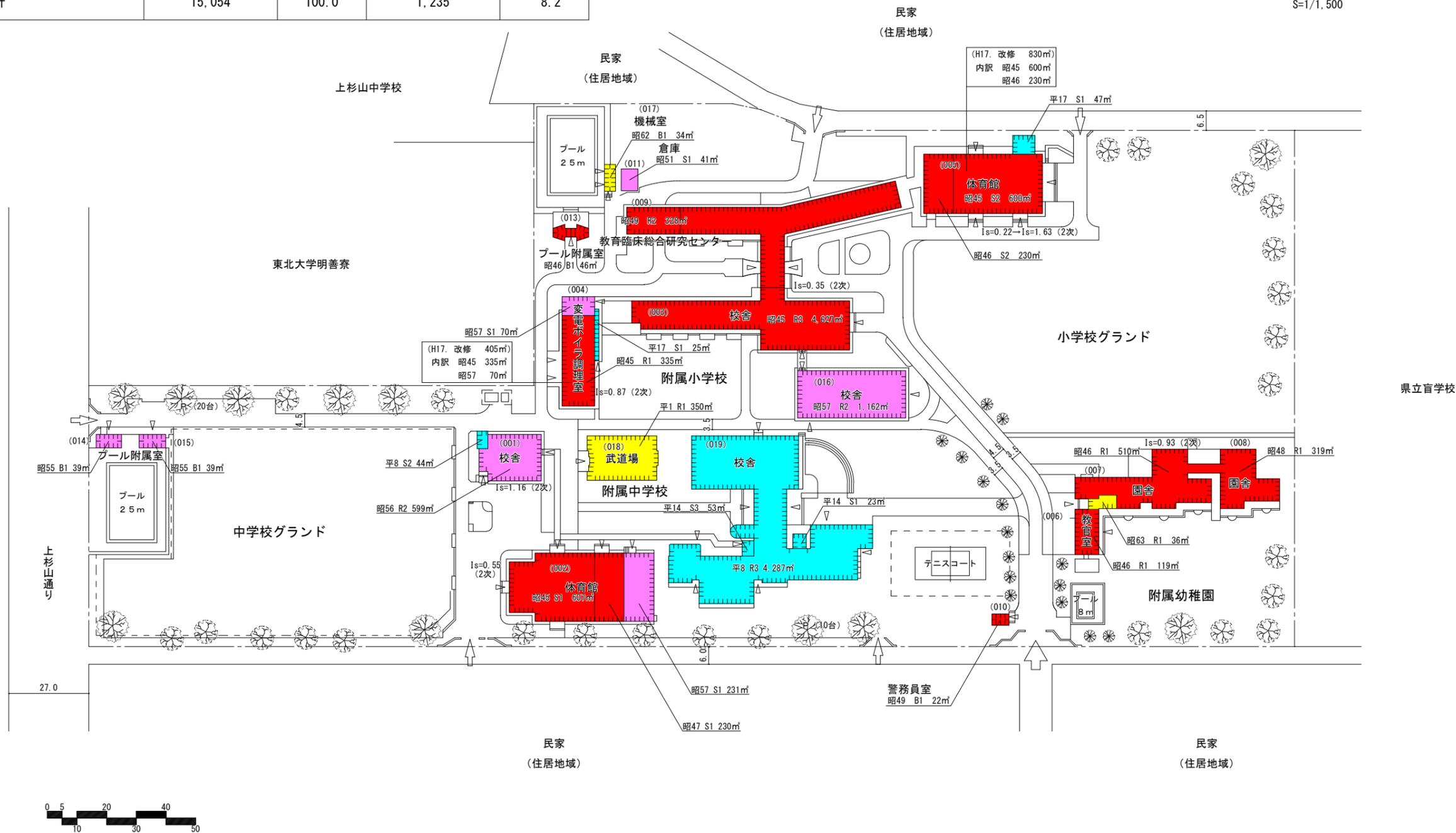
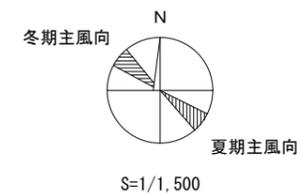


敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全生徒数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名	作成年度
57,659㎡	9,283㎡	15,828㎡	16.0%	27.0%	1,504人	附属中学校、附属小学校、附属幼稚園	002	上杉	仙台市青葉区上杉 6-4-1	0136	宮城教育大学	平成25年度

[平成17年12月1日現在]

凡例	経過年数	建築年	延べ面積 (㎡)	割合 (%)	うち改修歴のある建物面積 (㎡)	割合 (%)
	30年以上	昭和50年以前	7,973	53.0	1,165	14.6
	20~29年	昭和51年~60年	2,182	14.5	70	3.2
	10~19年	昭和61年~平成7年	420	2.8	0	0.0
	0~9年	平成8年以降	4,479	29.7	0	0.0
計			15,054	100.0	1,235	8.2

経年別建物配置図



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全生徒数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	法人番号	法人名	作成年度
57,659㎡	8,763㎡	15,054㎡	15.2%	26.1%	1,504人	附属中学校、附属小学校、附属幼稚園、教育臨床総合研究センター	002	上杉	仙台市青葉区上杉6-4-1	011	宮城教育大学	平成17

参 考 资 料

宮城教育大学 施設メンテナンス総括表【平成23～25年度】

実施年度	団地番号	団地名	棟番号	棟名称	建築年 (西暦)	経過 年数	構造 ・階	建築面積 (㎡)	延べ床面積 (㎡)	総合評価		大項目評価点				
										点数	グレード	低炭素化	耐震	老朽	居住環境	教育研究基盤
H23	001	青葉山	001	1号館	1968	43	R4	(931)	(3,788)	38	C	0.0	8.0	2.7	4.8	3.6
H23	001	青葉山	005	2号館	1968	43 (11)	R3-1	(1,462)	(4,017)	72	B	5.8	10.0	6.9	6.0	7.2
H23	001	青葉山	008	音楽棟	1968	43	R2	(587)	(1,008)	38	C	1.1	8.0	3.7	1.2	5.0
H23	001	青葉山	025	附属環境教育実践研究センター	1968	43	R2	(842)	(1,683)	27	D	0.5	2.4	3.5	1.2	6.1
H24	001	青葉山	038	3号館	1972	39	R4	(745)	(3,014)	47	C	1.1	10.0	3.2	5.7	3.6
H24	001	青葉山	039	4号館	1972	39	R3	(273)	(815)	20	D	0.5	2.4	3.1	3.2	0.8
H24	001	青葉山	006	5号館	1968	44	R4	(647)	(2,605)	40	C	0.0	8.0	4.3	4.4	3.6
H24	001	青葉山	048	6号館	1979	33	R4	(308)	(1,181)	39	C	0.5	8.0	6.9	0.8	3.6
H24	001	青葉山	054	7号館	1980	32	R3	(292)	(913)	43	C	1.1	8.6	5.2	5.3	1.7
H24	001	青葉山	055	講堂	1981	31	R2 一部S	(1,215)	(1,225)	35	C	0.0	8.6	5.9	1.7	1.7
H24	001	青葉山	016	図書館	1968	44 (3)	R2	(1,330)	(2,934)	79	B	7.8	10.0	10.0	8.3	3.5
H24	001	青葉山	007	美術棟	1968	44	R1	(854)	(854)	34	C	0.6	8.0	2.7	3.2	2.7
H24	001	青葉山	020	体育系サークル棟	1968	44	R1	(360)	(360)	14	D	0.6	3.0	2.1	0.0	対象外
H24	001	青葉山	019	文化系サークル棟	1968	44	R1	(240)	(240)	14	D	0.6	3.0	2.1	0.0	対象外
H25	001	青葉山	011	管理棟	1968	45	R3	(947)	(2,038)	36	C	0.5	6.2	4.5	3.2	評価外
H25	001	青葉山	017	体育館武道場	1968	45	S1/R2	(1,568)	(1,820)	30	C	0.0	9.4	2.7	0.0	評価外
H25	001	青葉山	021	青葉セミナーハウス	1968	45	B1	(198)	(198)	35	C	0.0	10.0	4.0	0.0	評価外
H25	001	青葉山	056	表現活動実習棟	1983	30	R2	(621)	(1,193)	46	C	1.5	10.0	5.1	1.8	評価外
H25	001	青葉山	057	文化サークル共用施設	1984	29	R2	(261)	(470)	80	A	7.3	10.0	10.0	4.9	評価外

↑ () は大規模改修後

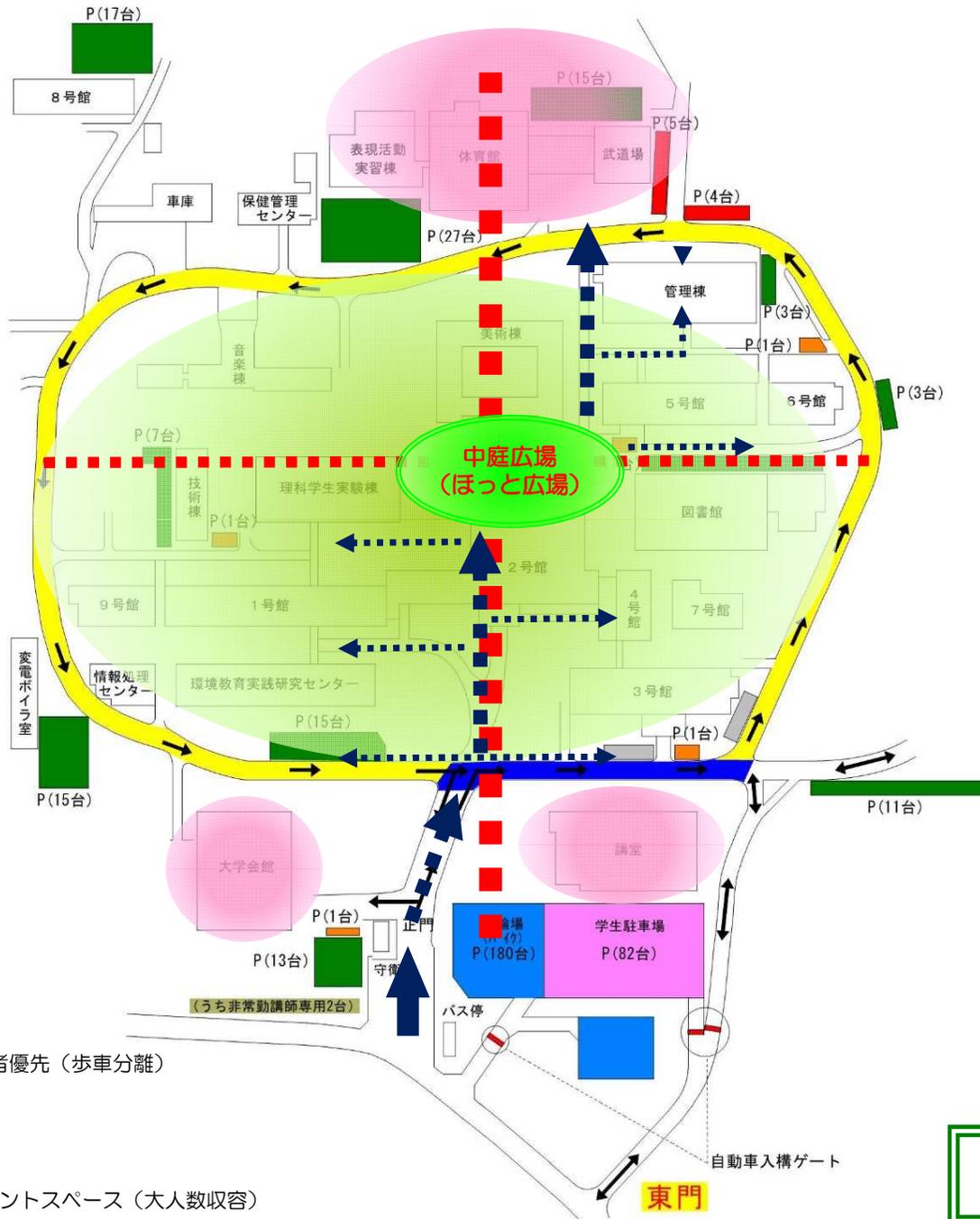
キャンパス 交通・動線計画

- ■ ■ 軸線
- - - 副軸線
- ← 主な歩行者動線

駐車場・駐輪場

- 教職員用
- 外来者用
- 学生駐車場
- 身障者用
- バイク駐輪場
- 自転車専用置場

- 一方通行
- " (大型車除く)



歩行者優先 (歩車分離)

イベントスペース (大人数収容)

宮城教育大学 青葉山キャンパスマスタープラン

保有面積の抑制について

国立大学法人宮城教育大学における施設の有効活用に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人宮城教育大学の施設が全学共有のものとの認識に立って、その有効活用を図るため、教育・研究活動の状況等に応じた施設使用の再編及び全学共同利用のためのスペースの確保等に関し……

(共用スペースの確保等)

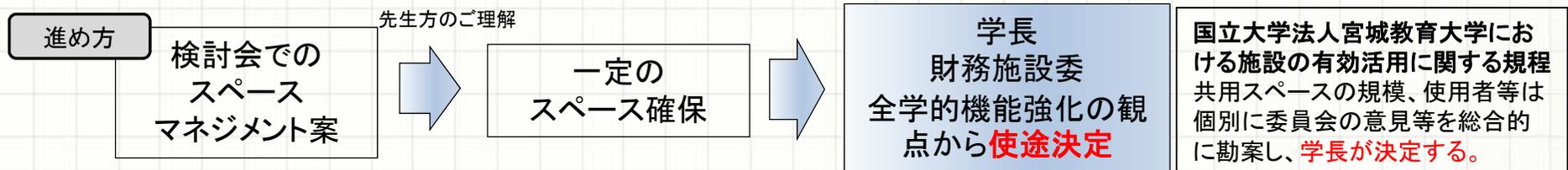
第5条 施設の新営及び大規模改修を行う場合には、講座等の組織の枠組みを越え全学で利用できるスペース(以下「共用スペース」という。)を確保するものとする。

今後の宮城教育大学の施設の運営・整備の基本的な方針について (平成30年8月)

4. 1 当面の施設マネジメントの具体的進め方 - 共同利用スペースの確保 -

…スペースの再配分のため、学長の裁量により入居者を決定する弾力的かつ流動的なスペースとして共同利用スペースの確保を目指す。

1号館改修にともなったスペースマネジメント(利用状況を踏まえた、同種の用途や機能を有するスペースの配置の見直し・集約化など)により、全学で利用出来るスペース(以下、共同利用スペース)を確保する



その他の新たなニーズに対応した既存施設の有効利用・保有面積抑制に係る方針

理科・技術・家庭科機能の移転整備

施設マネジメントを通じたスペースの資源配分や保有面積抑制の観点から理科講座・家庭科講座・技術講座の移転整備にあたっては「退職又は転出した教員に係る研究室等の取扱いに関する規程」等に基づいたスペースを有効活用し、保有面積を増やす新築整備等を行わない。

イメージ

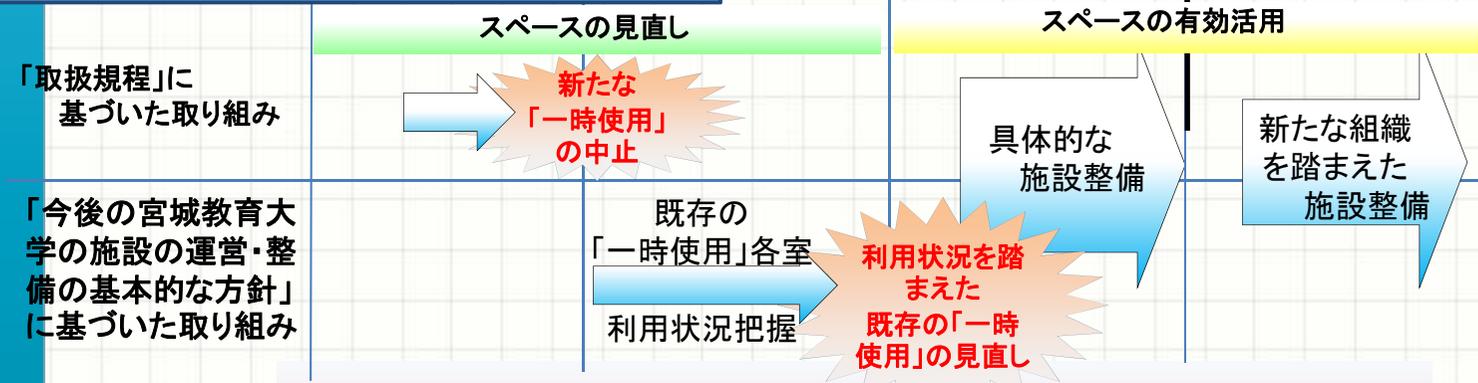


保有面積抑制【規程等に基づいた当面の方針】

宮城教育大学 学部・大学院の入試、教育課程等の総合的な改革の行程(案)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
【教育学部】	大型改修整備の実施【仮移転先の確保必要】				
教員組織改革	<ul style="list-style-type: none"> 配置方針決定 教員組織の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 教員組織の在り方の細部の検討、決定 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな教員組織に移行 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな教員組織による新カリキュラム実施準備 新たな教育課程に必要な教員の採用のための公募 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな教員組織による教育実施
【大学院】	新たな組織への対応 柔軟なスペースが必要				
大学院改革	<ul style="list-style-type: none"> 改革方針決定 教職大学院一本化予告 自治体等から意見聴取 新たなコース等や教育課程等の検討開始 学内教員の在り方の検討 担当専任教員決定 文科省と協議 他の国公立大学との連携等開始 	<ul style="list-style-type: none"> 学内で教育研究組織、教育課程、入試、担当教員決定 学内教員の移行作業 他の国公立大学との連携 実習校の協議・調整【2020年3月末】 文科省への事前伺、課程認定 関係書類作成、関係書類提出 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な細部の議論(シラバス等作成) 学内教員の移行作業 入試広報、説明会開催 施設設備整備 必要性がある場合の新規教員採用 実習校との調整【7月】 2021年度概算要求【11月～2021年3月】 新入試実施 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者受け入れ 	

連動したスペースマネジメントの取り組み



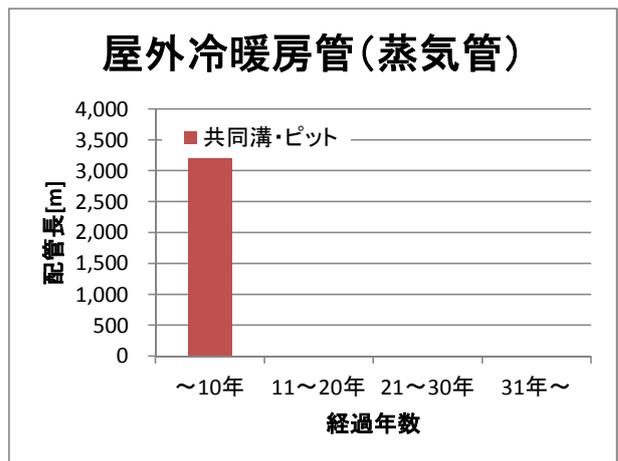
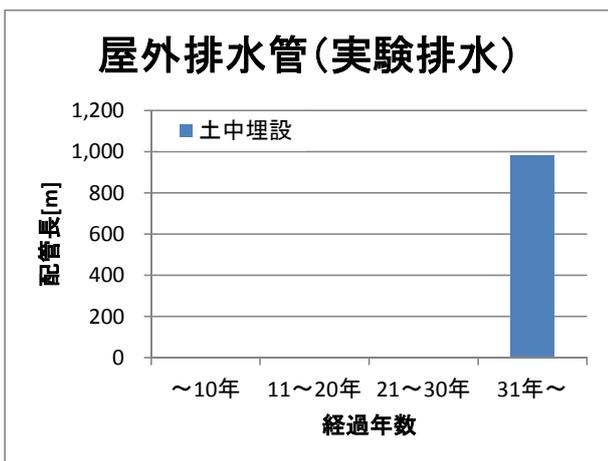
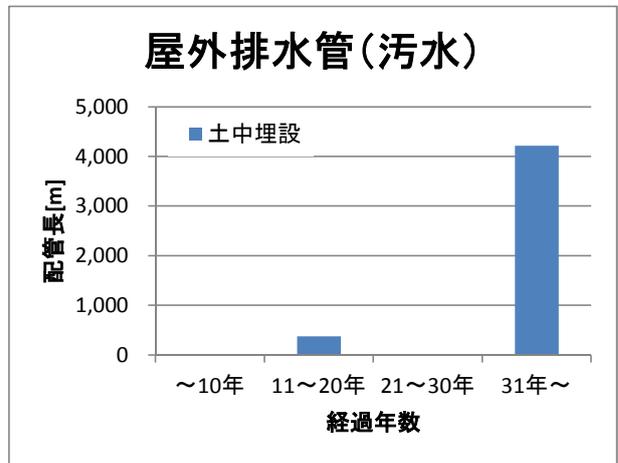
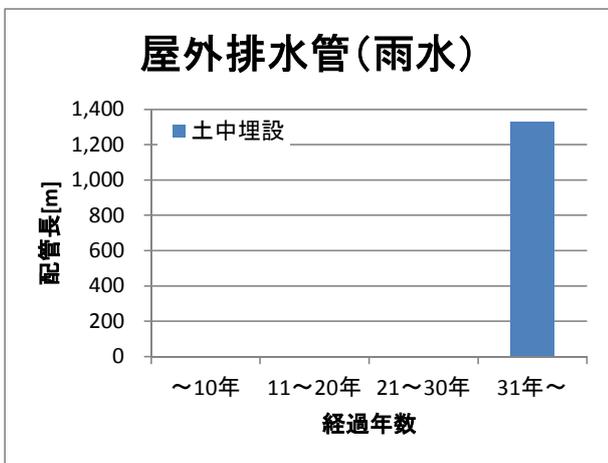
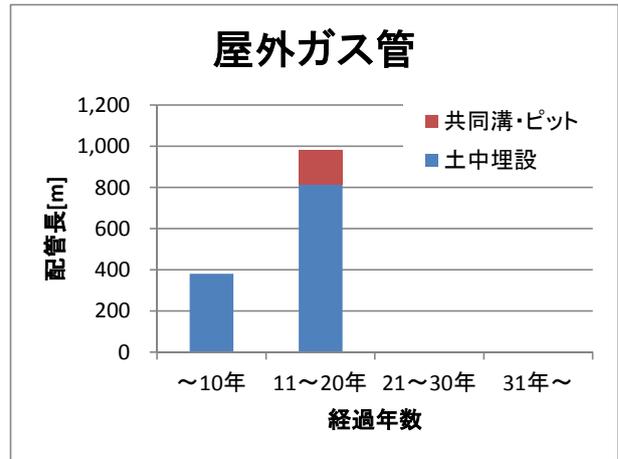
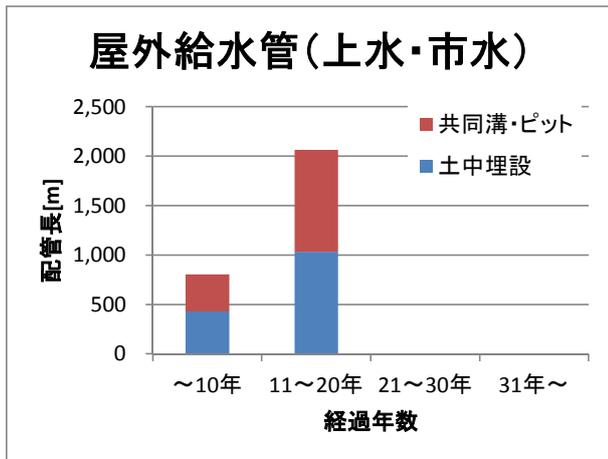
**今後の改革と連動したスペースの運用のために
規程等の主旨(全学共有のものとの認識等)に基づいた取組を加速**



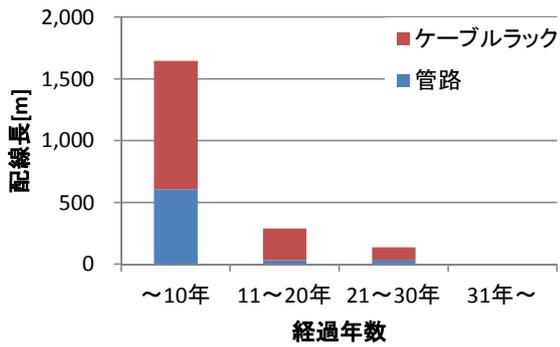
グループワーキングルーム
アクティブラーニングスペース

基幹設備(ライフライン)老朽状況

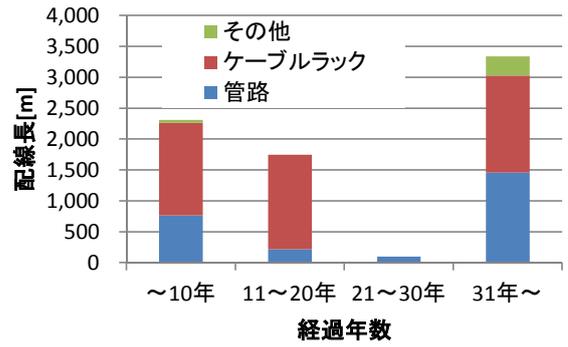
青葉山団地



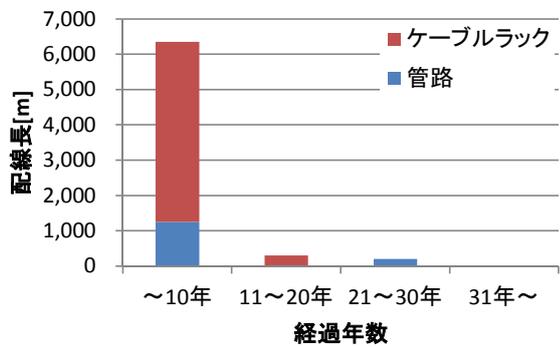
屋外電力線(高圧)



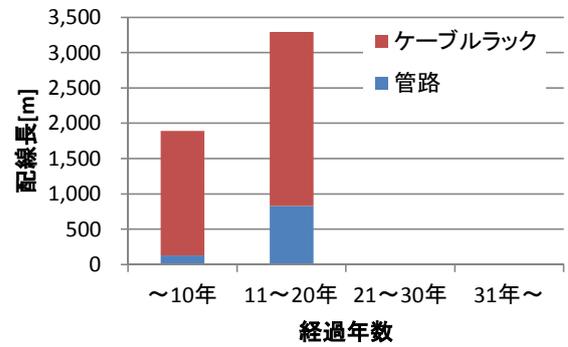
屋外電力線(低圧)



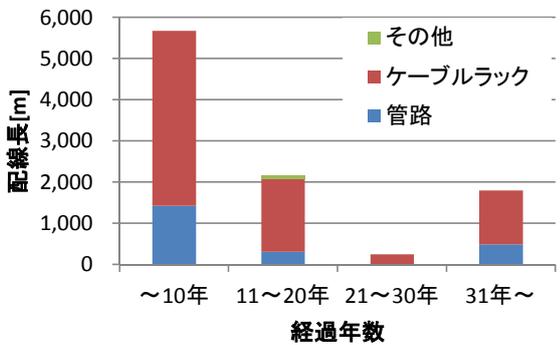
屋外通信線(電話)



屋外通信線(LAN)

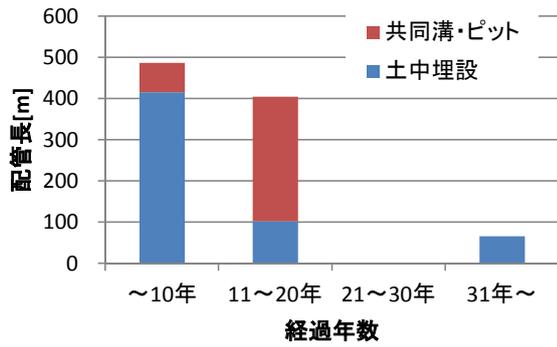


屋外通信線(防災等)

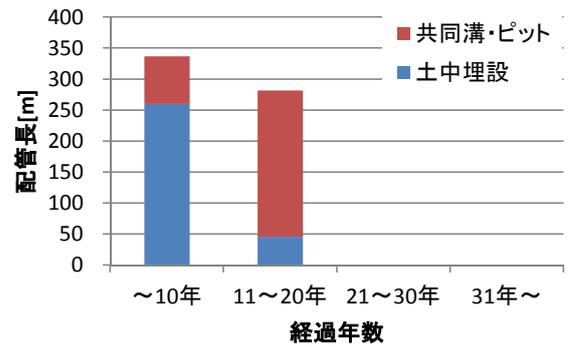


上杉団地

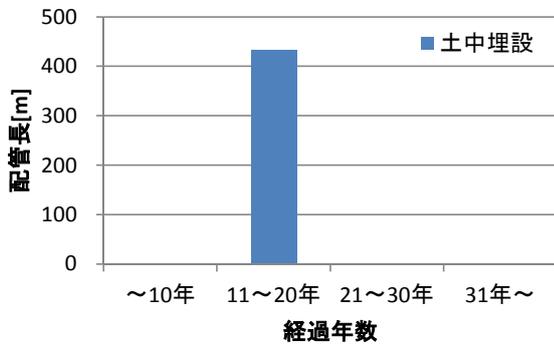
屋外給水管(上水・市水)



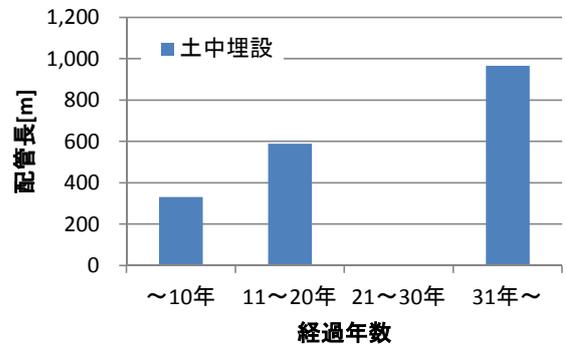
屋外ガス管



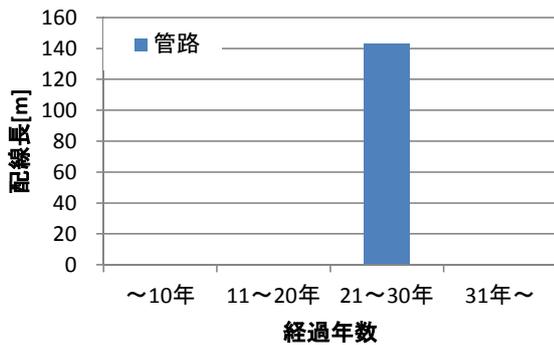
屋外排水管(雨水)



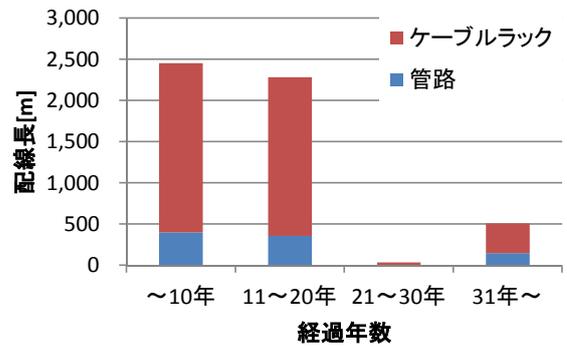
屋外排水管(汚水)



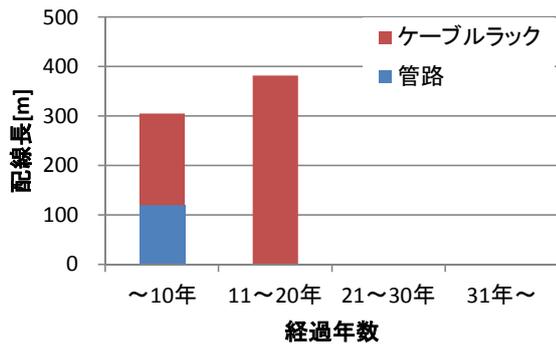
屋外電力線(高圧)



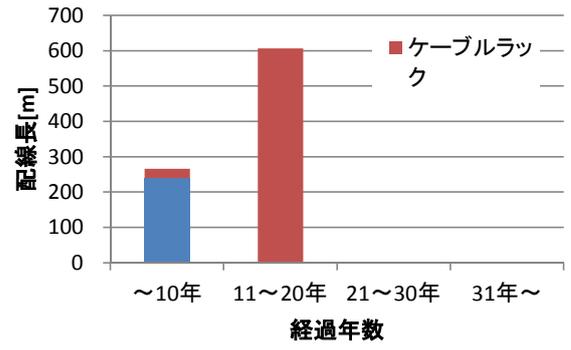
屋外電力線(低圧)



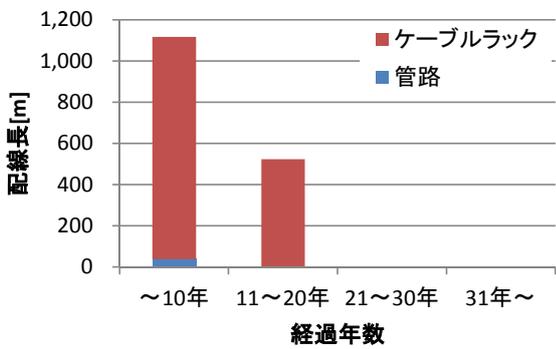
屋外通信線(電話)



屋外通信線(LAN)

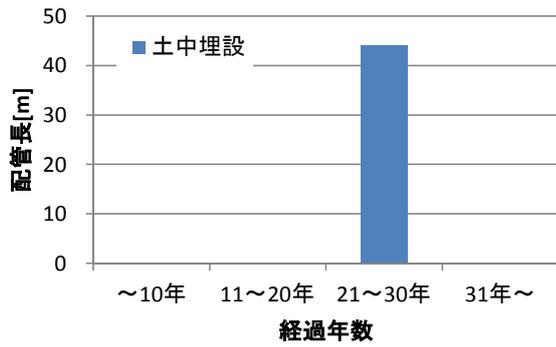


屋外通信線(防災等)

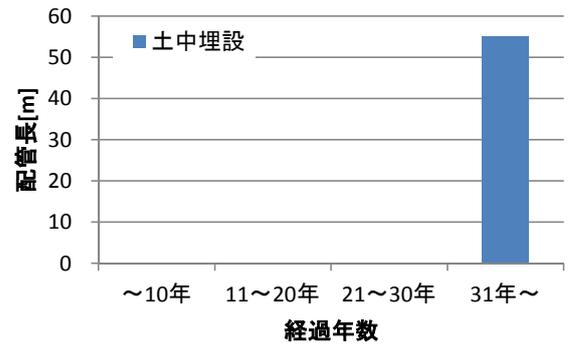


水の森団地

屋外給水管(上水・市水)



屋外排水管(汚水)



屋外電力線(高圧)

